浅　間　山

○火山活動度レベル（平成16年９月１日～30日）

１日 20 時 02 分に発生した中規模の爆発的噴火（以下、中爆発という。）に伴い、火山活動度レベルを２（やや活発な火山活動）から３（山頂火口で小～中噴火が発生）に変更しました。

○概況

１日 20 時 02 分に中爆発が発生しました。火口周辺に直径３～４ｍの噴石が、北東６㎞ に最大３㎝ の火山れきが飛散し、降灰は北東約 250㎞ の福島県相馬市まで及びました。

浅間山では７月下旬以降噴煙量が増加し、火口底温度の上昇がみられ、微弱な火映現象も確認されていました。また、地震活動がやや活発な状態が続き、８月上旬には火山性微動も多く発生していました。そのような中で８月31日15時頃から微小な地震が多発し、翌９月１日に入っても多い状態が続き、20時02分に中爆発が発生しました。傾斜計では爆発に伴い山頂側が下がるような変動が観測されました。

１日の中爆発の後、14 日～18 日に小噴火が多発し、特に 16 日未明～17 日夕方にはほぼ連続的に発生しました。その後、23 日 19 時 44 分、29 日 12 時 17 分にも、１日よりは規模が小さいものの中爆発が発生しました。

＜次ページ以降の目次＞

2　主な噴火
3　９月１日 20 時 02 分の中爆発
5　９月 14 日 15 時 36 分の小噴火、９月 15 日～18 日の小噴火の頻発
7　９月 23 日 19 時 44 分及び９月 29 日 12 時 17 分の中爆発
8　火口内の状況
9　火山性地震及び微動の発生状況
10　火山ガスの状況
11　地殻変動の状況
13　常時観測点
14　火山情報一覧
16　火山性地震・火山性微動の日回数、噴煙の高さの日最高・噴煙量の日最大及び確認された火映の強度

○主な噴火

発生日時	噴火の表現	噴煙の状況（火口縁上の高さ、流向等）	空振（Pa）※1		噴石の飛散、火山れきの降下等※2	降灰状況 主な確認地点※2	噴火前に観測された現象	備考
			A点	追分				
1日 20時02分	中爆発	雲のため不明。気象レーダーにより3,500～5,500mで北東に流れるエコーを観測。	S.O.	205.0	火口周辺に直径3～4mの噴石、火口の北東6km付近に3cm程度の火山れき	北東方向の群馬県嬬恋村・沼田市、福島県郡山市・相馬市等。	約29時間前から山頂直下が膨らむような傾斜変化と地震の多発。	山麓から火山雷が確認された。
14日 15時36分	小噴火	2,500mまで上がり東に流れる	0.3	－	特に確認されず	東南東方向の長野県軽井沢町、群馬県松井田町・安中市等	約14分前から地震が12回と多発	
15日 ～18日	小噴火が頻発	最高1,500mまで上がり南～南東に流れる	最大 13.2	最大 9.4	火口周辺に噴石が間欠的に飛散	南東方向の長野県軽井沢町をはじめ関東地方南部（埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県）の一部		
23日 19時44分	中爆発	雲のため不明	S.O.	72.3	火口の北北東4km付近に3cm程度の火山れき	北～北東方向の群馬県嬬恋村・長野原町、新潟県大和町、山形県山形市・東根市等	約4時間前から山頂直下が膨らむような傾斜変化。地震の増加。	爆発地震により軽井沢町追分及び御代田町御代田で震度1を観測。
29日 12時17分	中爆発	雲のため不明	52.5	29.6	火口の北4km付近に4cm程度の火山れき	北～北東方向の群馬県嬬恋村・長野原町・草津町等	約6時間前から山頂直下が膨らむような傾斜変化	爆発地震により御代田町御代田で震度1を観測。

※1　空振は空振計で観測しており、単位は圧力を表すパスカル（Pa）。おおむね10Paを超えると身体に感じられるようになり、数百Paではガラスが割れるなどの被害を生じる可能性がある。

※2　噴石の飛散、火山れきの降下、降灰状況は、気象官署、大学等研究機関、防災関係機関及び一般からの情報に基づく。

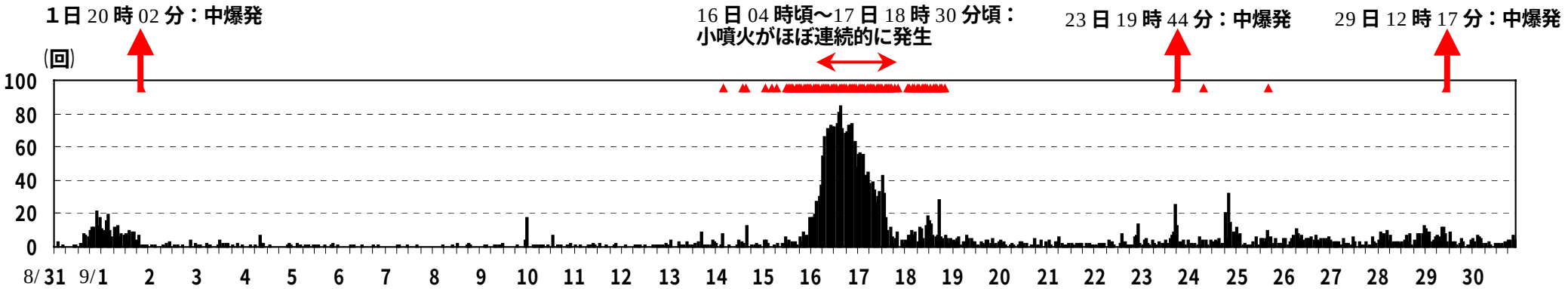

図１　浅間山　火山性地震の時間別回数。▲は噴火を示す。

○９月１日20時02分の中爆発

９月１日20時02分、浅間山で中爆発が発生しました。軽井沢測候所に設置している高感度の監視カメラによる観測では、噴煙の高さ・量・色は雲のため不明でしたが、中爆発に伴い雲を通して明るく見える現象が確認されました（図２（左））。その後、赤熱した噴石が中腹（火口から２㎞程度）まで飛散するのが観測されました（図２（右））。噴火に伴い山麓から火山雷も確認されました。

図２　浅間山　９月１日20時02分の中爆発後の状況
火口の南約８㎞の軽井沢測候所に設置した高感度カメラで撮影。中腹から上には雲がかかっている。
（左）中爆発直後の写真。
（右）左図の30秒後の写真。赤熱した噴石が中腹（火口から２㎞程度）まで飛散している。

この中爆発に伴い爆発地震（M(マグニチュード)1.6(暫定)※）を観測しました。また、火口の南約８㎞の軽井沢測候所では非常に大きい爆発音と205パスカルの空振(空振はおおむね10パスカルを超えると身体に感じられるようになり、数百パスカルではガラスが割れるなどの被害を生じる可能性があります。)を観測しました。また、中爆発以降、噴出に伴うと考えられる火山性微動が同日23時頃まで継続しました。

なお、車山（長野県茅野市；浅間山の南西約45㎞）に設置している気象レーダーにより、浅間山上空の火口縁上3,500～5,500mの高さまで、中爆発に伴う噴煙によるとみられるレーダーエコーが観測されました（図３）。同様の現象は柏（千葉県）、弥彦山（新潟県）、名古屋（愛知県）に設置しているレーダーでも捉えられています。

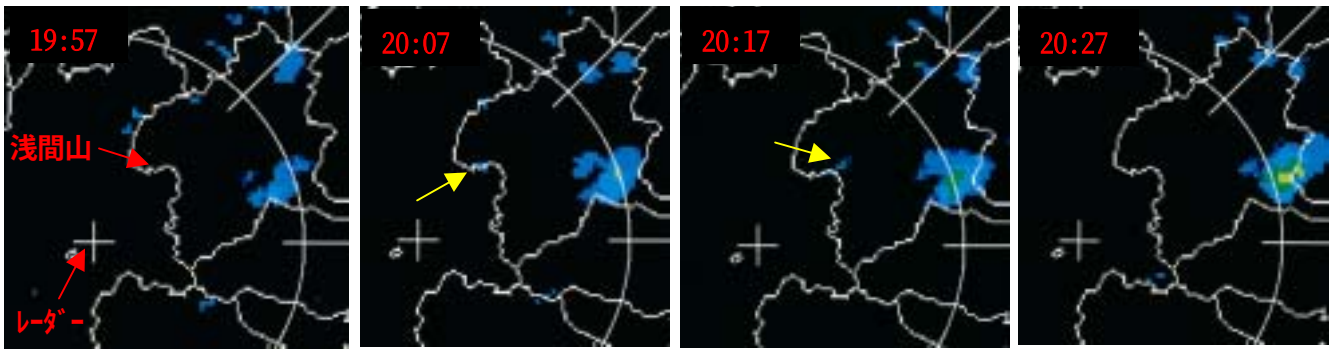

図３　浅間山　長野県の車山の気象レーダーが捉えた噴煙に対応するエコー
左より９月１日19時57分、20時07分、17分、27分のエコー。19時57分には浅間山上空にエコーはなく、20時02分の中爆発後の20時07分及び17分にはエコー（図中黄色矢印で示す）が観測され、うち17分のエコーは浅間山から北東に伸びている。同エコーは20時27分以降には確認できなくなった。

中爆発後に機動観測を実施し、噴石や火山灰の飛散状況の調査を実施しました。中爆発が発生した当時、浅間山の上空では南西の風が吹いおり、北東の山腹から山麓にかけて火山れきや火山灰が降っているのが確認されました（図４）。降灰は最も遠いところで北東約250㎞の福島県相馬市でも確認されました（図５）。

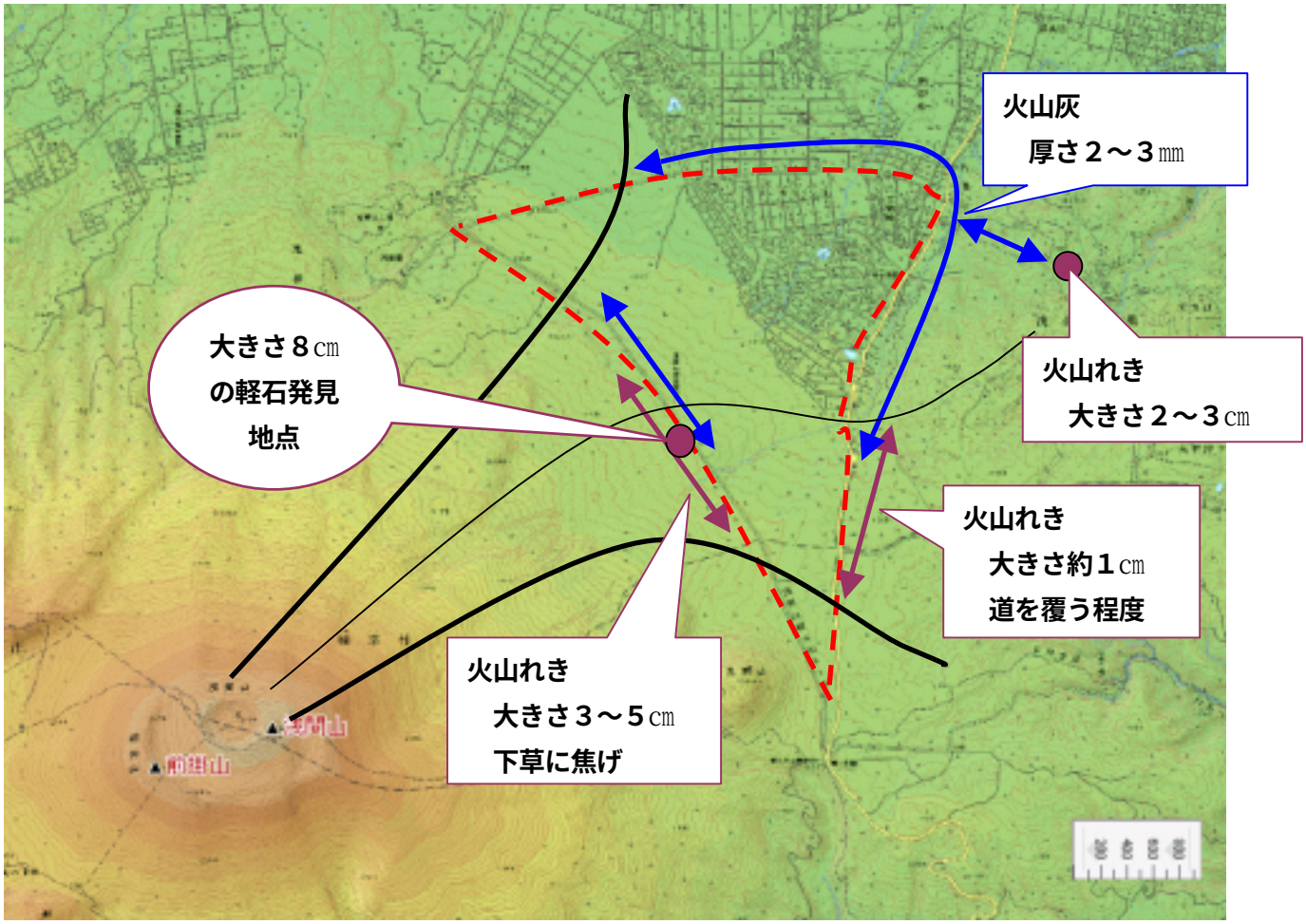

図４　浅間山　９月２日～３日に機動観測で確認した火山れき及び火山灰の飛散状況

図５　浅間山　９月１日 20 時 02 分の中爆発による降灰分布
気象官署、大学等研究機関、防災関係機関及び一般からの情報による
●：降灰の報告があった地点
○：降灰の報告がなかった主な地点

○９月14日15時36分の小噴火、９月15日～18日の小噴火の頻発

９月14日15時36分に小噴火が発生しました。軽井沢測候所の観測では、火山灰を含む灰色で多量の噴煙が火口縁上の高さ2,500mまで上がり東に流れました（図６（左））。有色噴煙の噴出は15時43分まで続きました。火山灰は西の風に流され、東南東側の長野県軽井沢町、群馬県松井田町・安中市等で降灰が確認されました。爆発地震や顕著な空振、噴石の飛散は観測されませんでした。

９月１日に中爆発が発生した後、９月14日の小噴火が発生するまでは、地震の発生回数が一時少なくなり（９月２日～12日に数回～20回程度、10日のみ37回）、噴煙の高さも低くなり、火山活動は表面上やや低調に見える状態で推移していましたが、９月14日03時30分、13時31分にごく小規模の噴火が発生し、小噴火の直前の15時22分～15時36分までの14分間に地震が12回と多く発生しました。

図６　浅間山　（左）９月14日15時36分の小噴火による噴煙、（右）小噴火が頻発した際の噴煙（９月16日16時54分頃）
共に火口の南約８㎞の軽井沢測候所から撮影

９月14日15時36分の小噴火後、３回のごく小規模な噴火を経て、翌15日11時53分以降、小噴火が頻発するようになりました（図６（右）、図７）。特に16日未明～17日夕方まではほぼ連続的に小噴火が発生し、その後も頻発する状態は18日21時03分の小噴火まで続きました。その間の噴煙の高さは火口縁上1,000～1,500m、軽井沢測候所では断続的に弱い爆発音と空振（0.5～10パスカル程度）を観測しました。小噴火に伴い、爆発地震も観測されました。

この一連の小噴火による火山灰は北西の風により南東方向に流され、長野県軽井沢町では多量の降灰がありました。軽井沢測候所における降灰量は、14日09時～15日09時に１g/㎡、15日09時～16日09時に７g/㎡、16日09時～17日09時に14 g/㎡でした。また、関東地方南部の広い範囲で降灰が確認されました（図８）。17日00時過ぎには東京都千代田区大手町の気象庁でも微量の降灰を観測しました。気象庁での降灰の観測は1982年４月26日の浅間山の噴火以来です。

火口から放物線軌道を描いて飛び出す噴石

図７　浅間山　９月 16 日 20 時 00 分の噴火の状況

火口の南約８㎞の軽井沢測候所に設置した高感度カメラで撮影。

（左）複数の赤熱する噴石が火口から放物線軌道を描いて飛び出しており、ストロンボリ式の噴火をしていることが確認できる。

（右）左図の５秒後の写真。多数の赤熱する噴石が火口周辺に飛び散っている。

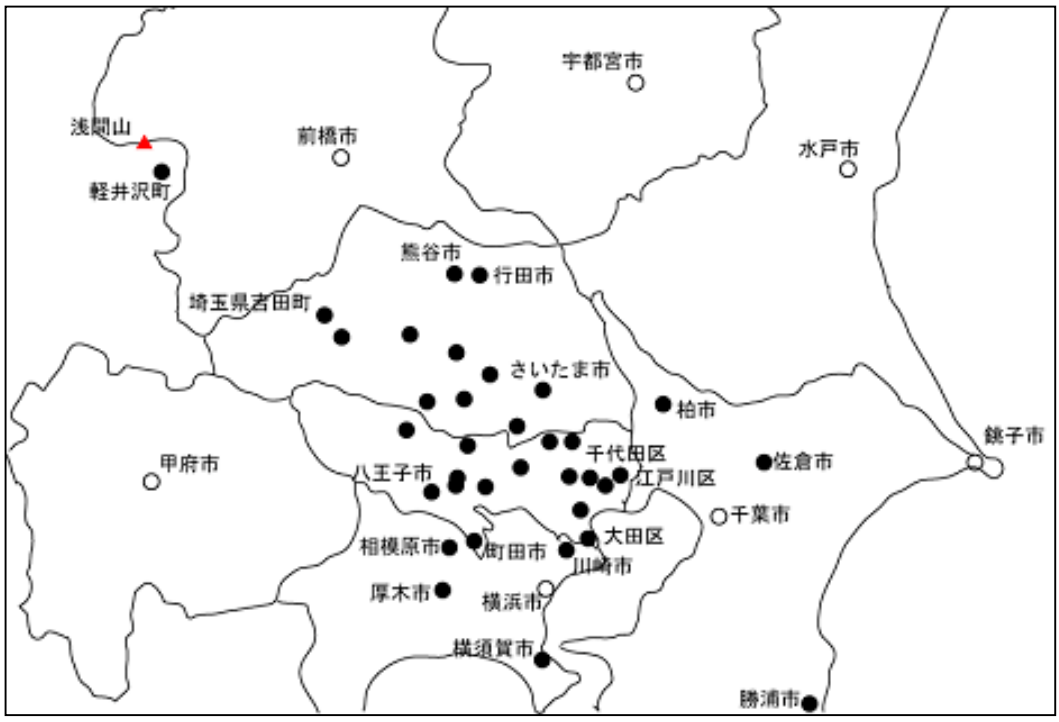

図８　浅間山　９月 16 日未明～17 日夕方のほぼ連続的な噴火による降灰分布

気象官署、大学等研究機関、防災関係機関及び一般からの情報による。

●：降灰の報告があった地点　　○：降灰の報告がなかった主な地点

○９月23日19時44分及び９月29日12時17分の中爆発

９月23日19時44分に９月１日以来となる中爆発が発生しました。噴煙の状況は雲のため不明でしたが、軽井沢測候所では中程度の爆発音と空振（72パスカル）を観測しました。爆発に伴い発生した地震（M2.3(暫定)※）により軽井沢町追分(軽井沢測候所)及び長野県御代田町で震度１を観測しました。

この噴火によるとみられる噴出物は、山頂の北北東４㎞ 付近で直径３㎝ 程度の火山れきが確認され、また、火山灰が南西の風に流され、北東山麓の群馬県嬬恋村・中之条町をはじめ、新潟県南魚沼郡大和町、山形県山形市等で降灰が確認されました（図９）。

傾斜計による地殻変動観測では、中爆発に先立ち同日 16 時過ぎから山頂直下がわずかに膨らむような傾斜変化が観測され、噴火後は山頂直下がわずかにしぼむような傾斜変化がみられました。

図９　浅間山　９月23日19時44分の中爆発による降灰分布
気象官署、大学等研究機関、防災関係機関及び一般からの情報による。
●：降灰の報告があった地点、○：降灰の報告がなかった主な地点。

９月29日12時17分に３回目の中爆発が発生しました。噴煙の状況は雲のため不明でしたが、軽井沢測候所では弱い爆発音と空振（30パスカル）を観測しました。爆発に伴い発生した地震（M1.9(暫定)※）により長野県御代田町で震度１を観測しました。

この噴火によるとみられる噴出物は、東京大学地震研究所により山頂の北４㎞付近で直径4㎝程度の火山れきが確認され、また、火山灰が南の風に流され、北側の群馬県嬬恋村・長野原町・六合村・草津町で降灰が確認されました。

傾斜計による地殻変動観測では、中爆発に先立ち前日 28 日 22 時頃から山頂直下がわずかに膨らむような傾斜変化が観測され、噴火当日の 01 時～06 時に一時ややしぼむような傾斜変化を示しましたが、06 時以降は再びわずかに膨らむ変化がみられ約６時間後に中爆発が発生しました。噴火後は山頂直下がわずかにしぼむような傾斜変化がみられました。

※M(マグニチュード)の計算には、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び気象庁のデータを使用しています

○火口内の状況

９月１日の噴火開始後、関係機関の協力を得て、表１のとおりヘリコプターによる上空からの観測を実施しました。

表1　浅間山　９月１日の噴火以降のヘリコプターによる観測

日付	協力機関	実施した観測項目
９月３日	群馬県	火口内の状況（噴煙のため不可）、噴石等の飛散状況。
	長野県	火口内の状況（噴煙のため不可）、噴石等の飛散状況。
９月７日	陸上自衛隊	火口内の状況（雲のため不可）、噴石等の飛散状況、火山ガス放出量。
９月18日	長野県	火口内の状況（雲のため不可・赤外線カメラによる観測は実施）、噴石等の飛散状況。
期間外 10月１日	長野県警察	火口内の状況、噴石等の飛散状況。

９月18日の火口観測では、噴煙により火口内部を視認することはできませんでしたが、赤外熱映像装置を用いて火口内の温度観測を実施した結果、火口底の北東ないし北側に、直径約100mの円形の高温部が確認されました（図10）。これは９月16日に国土地理院が実施した合成開口レーダーによる観測で確認された火口底北東側のドーム状の地形と整合的で、９月１日の噴火後に火口底にマグマが噴出して形成された溶岩ドームであると考えられます。

なお、期間外の10月１日の火口観測では、火口底の高さが９月１日の噴火以前よりもやや上昇し、山頂からの深さが約190mとなっていました（８月の時点での最深点は約250m）。また、火口底の北東側に直径70m、深さ約40mのくぼみが確認され、これは上述の溶岩ドームの一部がその後の噴火で吹き飛ばされて形成されたものと考えられます（詳細は10月の火山活動解説資料に掲載します）。

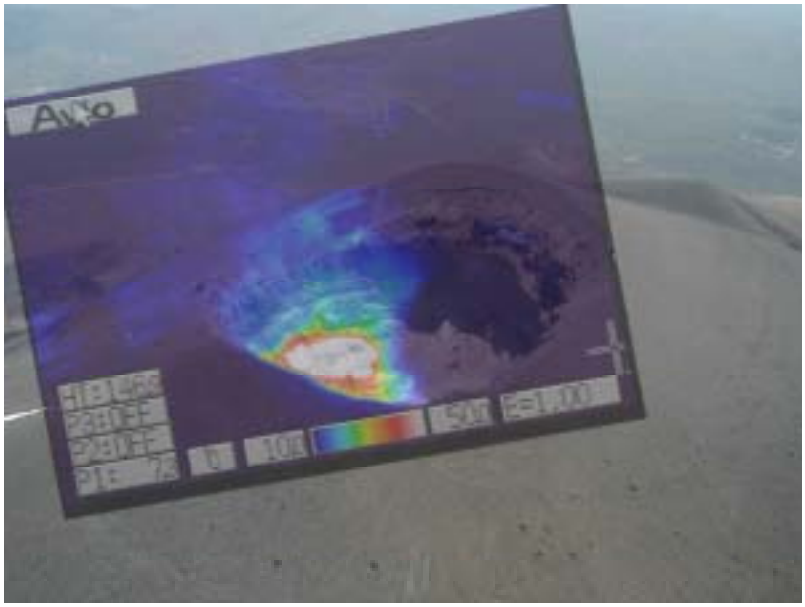

図10　浅間山　９月18日にヘリコプターから撮影した赤外熱映像を、過去の火口写真（1999年５月20日撮影）と重ね合わせた合成画像
高温部の直径は約100mで、火口底の北東ないし北側に偏っている。

○火山性地震及び微動の発生状況

2003 年後半以降やや多い状態が続いていた微小な地震の回数は、2004 年６月下旬～７月中旬に一時少なくなりましたが、７月 26 日以降再びやや多くなり、８月 31 日 15 時頃から９月１日 20 時 02 分の中爆発に至るまで多発しました。８月 31 日の日回数は 114 回、９月１日は 183 回でした。

９月１日の中爆発後、地震回数は１日あたり数回～20 回程度と一時少なくなりましたが、13 日に 40 回発生してやや多くなり、14 日 03 時台と 13 時台のごく小規模な噴火を経て、15 時 36 分に小噴火が発生しました。15 日以降は、９月中に３回発生した中爆発に伴う空振や爆発地震に比べると小さいものの、空振や爆発地震を伴う小噴火が頻発するようになり、16 日未明～17 日夕方にかけては小噴火がほぼ連続的に発生しました。16 日と 17 日の両日は噴火に伴う地震が多発し、日回数は 16 日が 1,401 回、17 日が 638 回になりました。その後、小噴火の頻度は徐々に減少して 18 日 21 時 03 分を最後に一旦発生がみられなくなり、同時に地震回数にも減少傾向がみられ 20 日～22 日には日回数 40 回程度まで減少しました。

23 日 19 時 44 分に１日以来となる中爆発が発生しましたが、それ以降、地震回数は多い状態で推移しています（以上図 11）。

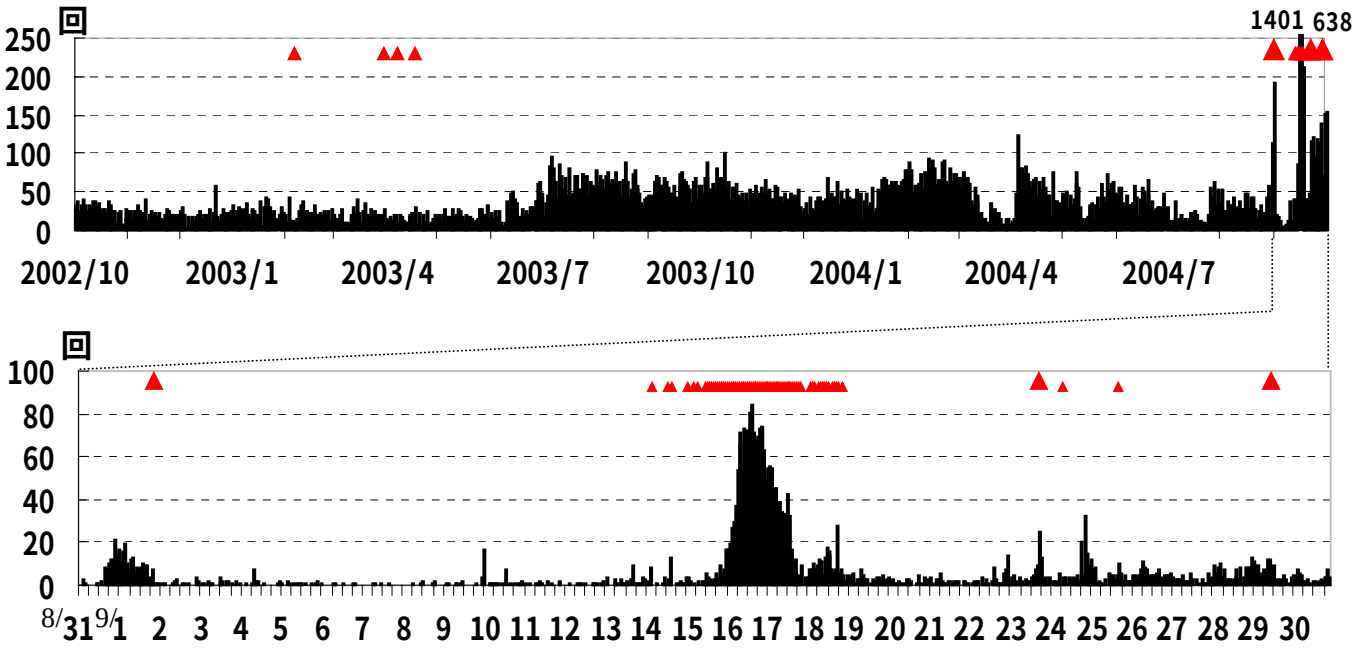

図 11　浅間山　最近２年間の地震の日回数（上：2002 年 10 月１日～2004 年９月 30 日）及び最近１か月間の地震の時間回数（下：2004 年８月 31 日～９月 30 日）
大きい三角▲は中噴火を、小さい▲は小噴火以下を表す。

火山性微動は８月上旬に１日あたり数回～10 回とやや多く発生し、その後８月 16 日～31 日には発生せず、９月１日 20 時 02 分の中爆発直後から噴火に伴い発生したとみられる微動が同日 23 時頃まで続きました。その後、９月上旬には一時発生回数が少なくなりましたが、中旬以降は 15 日に 19 回発生したのをはじめ、１日あたり数回～十数回とやや多い状態で推移しました。

○火山ガスの状況

９月３日、７日、13 日、10 月１日(期間外)に二酸化硫黄の放出量観測を実施しました。結果は表２と図 12 のとおりで、2003 年２月６日にごく小規模な噴火が発生した際に観測された放出量と同程度でした（2003 年２月７日の観測では 1,900～2,700 トン/日）。

また、９月７日のヘリコプターからの観測の際に、北～北東山腹で植生の一部が茶色に変色しているのを確認しました。火山ガスの影響を受けている可能性があります。

表２　浅間山　二酸化硫黄の放出量

観測日	二酸化硫黄放出量（トン/日）	観測方法
９月３日	880　1,350　1,640　1,580　1,880　1,570 2,380　1,390	紫外線相関スペクトロメータ（COSPEC）を車載しトラバース
９月７日	1,560　1,170　2,670	COSPEC をヘリに搭載しトラバース（陸上自衛隊の協力による）
９月 13 日	3,050　3,130　2,280　3,090　1,650　2,340	COSPEC を車載しトラバース
期間外 10 月１日	2,250　2,380　1,950　1,970　1,500　1,770	COSPEC を車載しトラバース

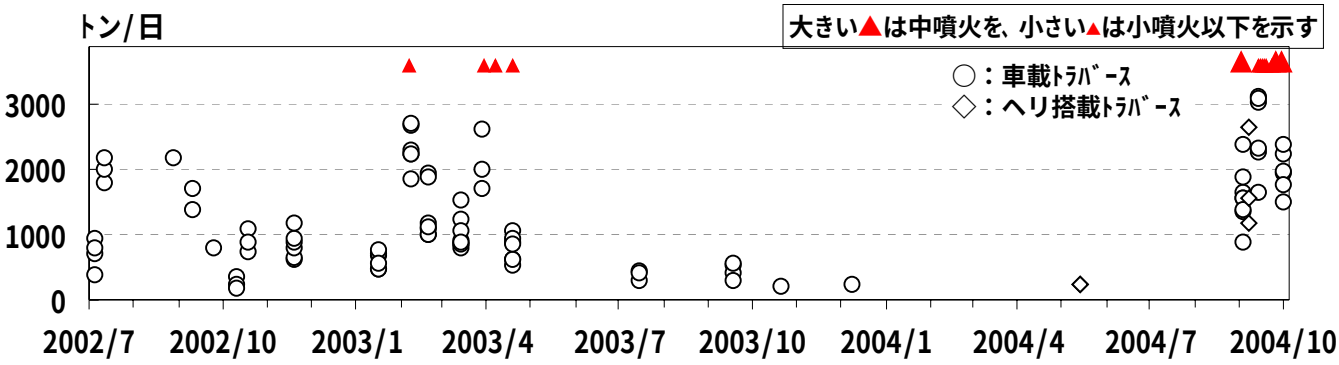

図 12　浅間山　二酸化硫黄の放出量の推移（2002 年７月４日～2004 年 10 月１日）

○地殻変動の状況

山頂の北北東約2.5㎞に設置した傾斜計によると、９月１日、23日、29日の３回の中爆発の前には、山頂直下が膨らんでいることを示すとみられる山頂側が上がるような変化が観測されました。そして、１日、23日の噴火後には、急激に山頂直下がしぼむような変化が観測されました（図13）。また、16日未明～17日夕方にかけてほぼ連続的に小噴火が発生した際には、その期間中、ゆっくりと山頂直下がしぼむような変化が観測されました。

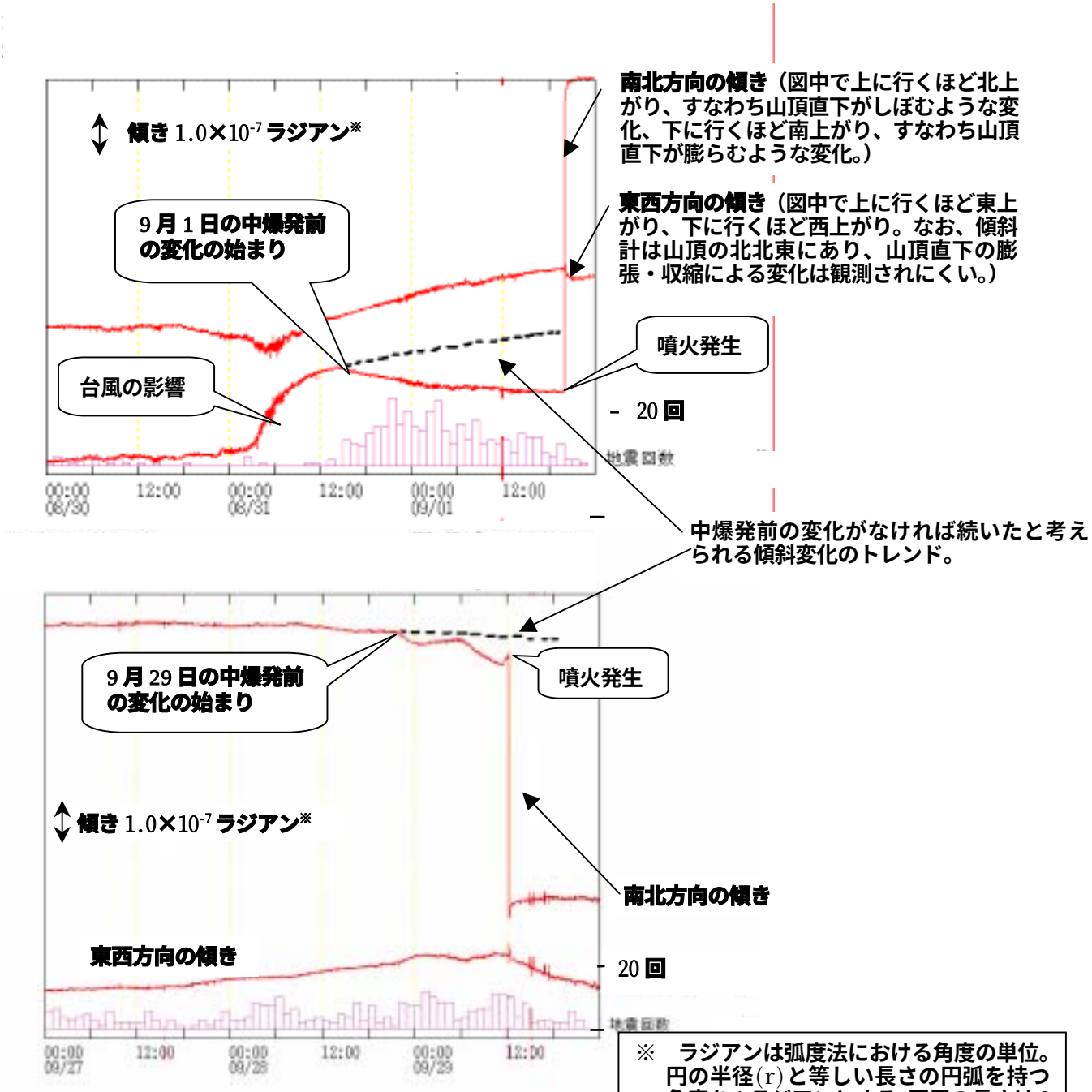

図13　浅間山　中爆発前後の傾斜変化
（上）９月１日の中爆発前後
（８月30日00時～９月１日24時）
（下）９月29日の中爆発前後
（９月27日00時～９月29日24時）

※　ラジアンは弧度法における角度の単位。円の半径(r)と等しい長さの円弧を持つ角度を１ラジアンとする。円周の長さは２πrなので360°＝２πラジアンとなる。
また、弧度法における角度(θ)が非常に小さい場合にはθ　tanθが成り立つ。
よって10^{-6}の角度（傾斜）変化は１㎞先が１㎜上下する変動に相当し、10^{-7}の傾斜変化は10㎞先が１㎜上下するのに相当する。

その他、山体の周辺に設置したGPSによる連続的な地殻変動観測（図14）、山頂部の地形変化を観測する光波測距観測では、中爆発の発生時及びその後に特に顕著な変化はありませんでした。

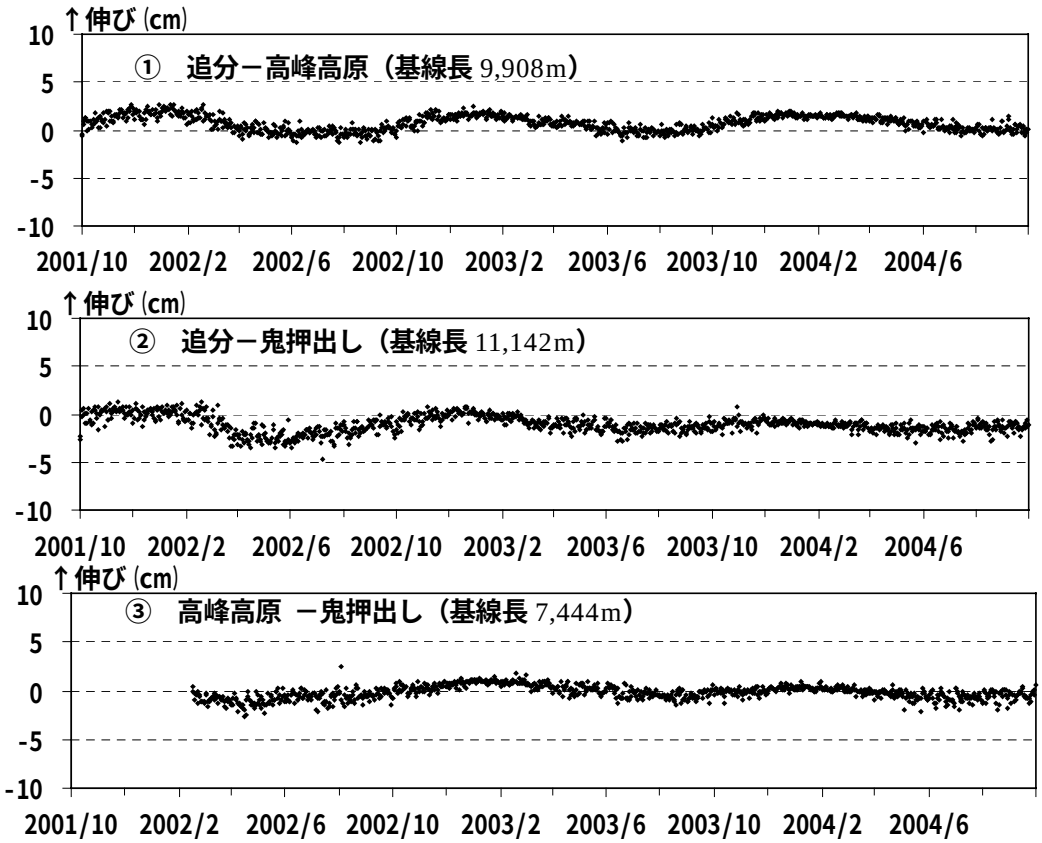

図 14　浅間山　GPS 観測結果（2001 年 10 月１日～2004 年９月 30 日）

冬季の伸び、夏季の縮み傾向は見かけ上のもので、火山活動によるとみられる変動は観測されていない。

○常時観測点

浅間山の火山活動を監視するため、地震計６か所、空振計３か所、GPS３か所（３基線）、遠望カメラ２か所、傾斜計１か所で常時観測を行っています。

追分（軽井沢測候所）では計測震度計による震度の観測も行っています。

なお、近日中にA点に傾斜計を、黒斑山に地震計を増設し、運用を開始する予定です。

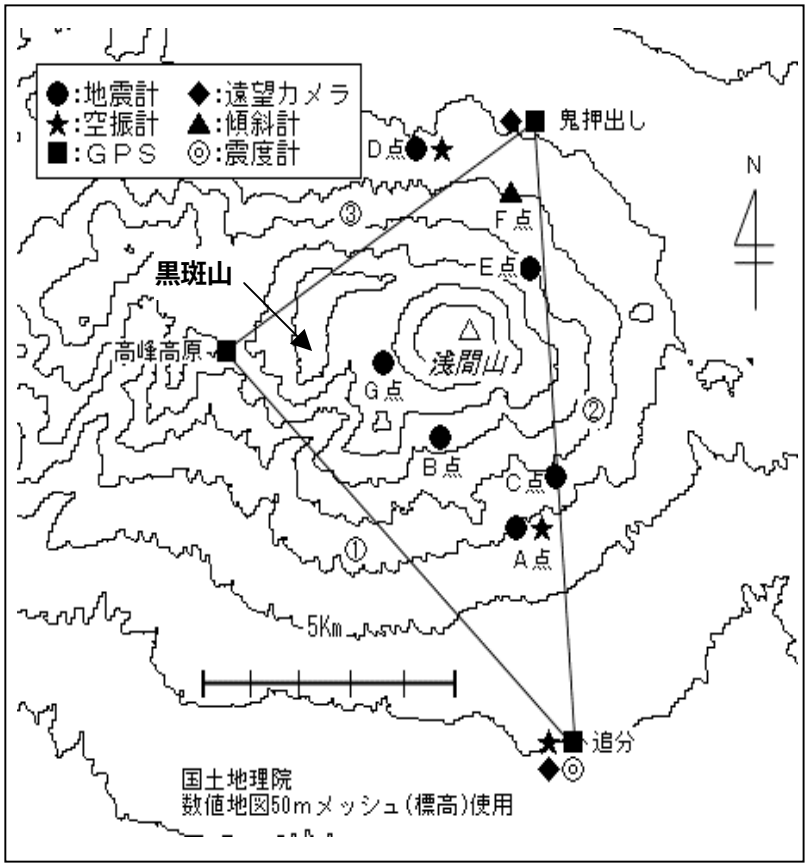

図 15　浅間山　気象庁の常時観測点

表３　浅間山　火山情報の発表状況（９月１日～30日）

火山情報名	発表日時	概　　要	ﾚﾍﾞﾙ
火山観測情報第６号	１日11:45	地震が多発、噴煙活動依然活発。山頂付近では少量の降灰や火山ガスに注意が必要。	２
臨時火山情報第１号	**１日20:09**	**20時02分頃噴火、噴煙の高さ不明。火山活動度レベルを２から３に変更。**	３
火山観測情報第７号	１日20:30	噴火に伴い大きな爆発音と空振、中腹以上で噴石を観測。噴出に伴う火山性微動観測。	
火山観測情報第８号	１日23:35	宇都宮市・郡山市等で降灰確認。噴火に伴う火山性微動、傾斜変化は収まっている。	
火山観測情報第９号	２日10:00	火山活動は小康状態。地震は少なく、微動は発生せず、地殻変動観測では変化がない。	
火山観測情報第10号	２日16:30		
火山観測情報第11号	３日16:00		
火山観測情報第12号	４日16:00		
火山観測情報第13号	５日16:00	3日に実施した二酸化硫黄放出量の観測では900～2400トン/日。火山活動は小康状態、5日に微動が2回。	
火山観測情報第14号	６日16:00	火山活動は小康状態。地震の少ない状態継続。	
火山観測情報第15号	７日16:00		
火山観測情報第16号	８日16:00	地震の少ない状態継続。7日に実施した二酸化硫黄放出量の観測では1200～2700トン/日。	
火山観測情報第17号	９日16:00	火山活動は小康状態。地震の少ない状態継続。	
火山観測情報第18号	９日17:35	**火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解**（現在のところ大規模な噴火が切迫していることを示す観測データなし。しかし、高温のマグマが関与しており、今後も爆発的噴火を繰り返す可能性は否定できない。）	
火山観測情報第19号	10日17:00	地震少ない、微動なし、顕著な地殻変動なし。	
火山観測情報第20号	13日16:00	地震・微動少ない。有色噴煙なし、白色1000m。顕著な地殻変動なし。	
火山観測情報第21号	14日10:20	有色噴煙300m、十数分継続。群馬県警からの情報；高崎市内（東約45km）で微量な降灰。	
臨時火山情報第２号	**14日15:43**	**15時36分頃噴火。灰色の噴煙が1000mまで上がり東に流れる。**	
火山観測情報第22号	14日16:10	噴煙2500m、15時43分まで継続。爆発地震、顕著な空振、噴石なし。	
火山観測情報第23号	14日20:20	東南東方向で降灰。松井田町、安中市でも確認。その後は噴火なし。13日の二酸化硫黄放出量。	
火山観測情報第24号	15日08:30	01時05分、04時51分のごく小規模な噴火の状況。	
火山観測情報第25号	15日12:20	灰色の噴煙が1500m、南に流れる。空振計でそれぞれ小さい空振。測候所では爆発音、体感空振、噴石の飛散観測されず。顕著な地殻変動なし。有色噴煙10分程度継続。	
火山観測情報第26号	15日16:00	本日15時までに噴火15回。最高は11時58分で1500m。一部の噴火に伴い空振。	
火山観測情報第27号	16日10:00	04時頃よりほぼ連続的に小噴火。最高でも1000m。測候所で01時頃から断続的に弱い爆発音、15日昼過ぎより降灰。15日09時～16日09時で7g/m^2。	
火山観測情報第28号	16日16:06	04時頃から小噴火がほぼ連続的。噴煙最高で1500m、軽井沢測候所で弱い降灰。弱い爆発音。わずかな山下がりの傾斜変化。	
火山観測情報第29号	16日19:40	18時40分頃より火口縁付近に赤熱した噴石。	
火山観測情報第30号	16日21:20	風下の南東方向、関東南部（埼玉県）でも降灰、今後他の地域でも降灰の可能性。火山活動に顕著な変化なし。	
火山観測情報第31号	17日00:25	千代田区でも降灰。火山活動には顕著な変化なし。	
火山観測情報第32号	17日10:05	16日04時から小噴火がほぼ連続、16日23時以降は頻度がやや低下。16日19時以降噴煙は最高で1000m。軽井沢測候所に断続的に降灰、16日09時～17日09時で14g/m^2。	

火山観測情報第33号	17日16:10	小噴火ほぼ連続、頻度やや低下。噴煙最高1500m。わずかな山下がりの変化。	
火山観測情報第34号	18日10:00	17日18時30頃連続的な小噴火は収まる。時々は発生。本日最高1200m。	
火山観測情報第35号	18日16:00	長野県消防防災ヘリコプターで観測。赤外熱映像装置で円形状に直径100mの高温部。	
火山観測情報第36号	19日10:10	18日21時03分を最後に噴火なし。傾斜変化ほとんどみられず。	
火山観測情報第37号	19日16:00	本日噴火なし。地理院・合成開口レーダーにより火口底の北東部に同心円状の高まりが形成。	
火山観測情報第38号	20日10:10	噴火なし。雲のため山頂部が確認できないことが多い。夜間に微弱な火映。顕著な地殻変動なし。	
火山観測情報第39号	20日16:00		
火山観測情報第40号	21日10:00		
火山観測情報第41号	21日16:00		
火山観測情報第42号	22日10:00		
火山観測情報第43号	22日16:00		
火山観測情報第44号	23日10:00		
火山観測情報第45号	23日16:00		
臨時火山情報第３号	**23日19:50**	**19時44分頃噴火。噴煙は雲で不明。レベル3が継続。**	
火山観測情報第46号	23日20:05	軽井沢測候所で中程度の爆発音と空振（72Pa）、震度1。噴火規模は中程度。火山性震動が継続。	
火山観測情報第47号	23日22:25	北～北東の嬬恋村・長野原町の一部で降灰。東京大学地震研究所によると北北東4kmで直径3cmの火山礫。噴火後の地震は10分で収束。山下がりの変動は落ち着く。	
火山観測情報第48号	24日10:00	09時33分ごく小規模な噴火。噴煙は雲で不明。空振計で微小な空振。地殻変動なし。	
火山観測情報第49号	24日16:05	09時33分の後噴火なし。噴煙は雲で不明。地殻変動特になし。23日の中爆発に伴う降灰確認は北北東100kmの新潟県南魚沼郡、北東260kmの山形市等。	
火山観測情報第50号	25日10:00	噴火なし。噴煙不明。未明に微弱な火映。地震24日20時～25日03時やや多い。地殻変動なし。	
火山観測情報第51号	25日16:00	噴火なし。噴煙不明。地殻変動なし。	
火山観測情報第52号	26日10:00	25日18時36分小噴火、灰白色1000m、空振計で微小な空振、顕著な地殻変動なし。夜間微弱な火映。	
火山観測情報第53号	26日16:00	噴火なし。雲のため山頂部が確認できないことが多いが、確認できた際には、噴煙最高で白色1000m、夜間に微弱な火映。地震・微動やや多い。地殻変動特になし。	
火山観測情報第54号	27日10:00		
火山観測情報第55号	27日16:00		
火山観測情報第56号	28日10:00		
火山観測情報第57号	28日16:00		
火山観測情報第58号	29日00:43	28日22時頃からわずかな山上がりの傾斜変化。火山性地震がやや増加。噴煙雲で不明。	
火山観測情報第59号	29日08:15	01時頃からやや山下がり、06時頃から再びわずかな山上がりの傾斜変化。地震活動やや活発。噴煙雲で不明。	
火山観測情報第60号	29日10:00	わずかな山下がりの傾斜変化継続。地震やや多い。噴煙不明。	
火山観測情報第61号	29日12:26	12時17分頃噴火。噴煙は雲で不明。上空は南南西の風。	
火山観測情報第62号	29日12:45	12時17分頃噴火。軽井沢測候所で弱い爆発音と空振29Pa。御代田町で震度1。噴煙不明。噴火規模は中程度。	
火山観測情報第63号	29日16:00	噴火なし。東京大学地震研究所によると山頂の北4km付近で直径4cmの火山礫。嬬恋村、長野原町、草津町等で降灰。山下がりの傾斜変動。地震・微動ともにやや多い。	
火山観測情報第64号	30日10:00	噴火なし。噴煙は雲で不明。地震・微動やや多い。地殻変動特になし。	
火山観測情報第65号	30日16:00		

表３　浅間山　火山性地震・火山性微動の日回数（Ｂ点）、
噴煙の高さの日最高・噴煙量の日最大（※1を付した顕著な噴煙活動以外は09時・15時の定時観測）、
及び確認された火映の強度

	火山性地震の回数			微動	噴火の回数		噴煙の状況		火映	備考
	高周波	低周波	爆発	回数	中規模	小規模以下	日最高(m)	噴煙量		
1日	1	189	1	1	1		>3500※1	5※1		噴煙の高さはレーダーによる
2日	0	17	0	0			×	×		
3日	0	21	0	0			200	2		
4日	0	17	0	0			×	×		
5日	0	13	0	2			×	×		
6日	0	6	0	0			200	1		
7日	0	4	0	0			×	×		
8日	0	8	0	0			100	1		
9日	1	11	0	0			×	×		
10日	0	37	0	0			×	×	0	
11日	0	13	0	1			×	×		
12日	0	13	0	1			600	4	0	
13日	0	40	0	0			600	3	0	
14日	0	40	0	3		3	2500※1	5※1	0	
15日	0	53	33	19		40	1000	4	0	
16日	0	16※2	1,385※2	1		1,329※3	1500	5	1	
17日	0	606※2	32※2	0		606	×	×	1	
18日	0	180	32	0		32	×	×		
19日	0	77	0	0			500	2	1	
20日	2	38	0	0			×	×	2	
21日	0	40	0	1			×	×	1	
22日	0	49	0	3			×	×	0	
23日	0	116	1	2	1		×	×		爆発地震に伴い震度1を観測
24日	0	120	1	5		1	×	×		
25日	0	96	1	5		1	×	×	0	
26日	0	118	0	13			×	×		
27日	0	66	0	7			1000	3	0	
28日	0	113	0	12			×	×	1	
29日	0	139	1	6	1		×	×		爆発地震に伴い震度1を観測
30日	0	71	0	2			×	×	0	
合計	4	2,327※2	1,487※2	84	3	2,012※3				

※2　16日04時～17日18時30分に小噴火がほぼ連続的に発生した際の地震回数は、現在精査中につき暫定値である。

※3　16日04時～17日18時30分に小噴火がほぼ連続的に発生した際の噴火回数は、便宜的に空振を伴った地震の回数としてある。空振を伴わない（ごく）小規模な噴火は計数不可。

凡例

噴煙量　1：極めて少量　　2：少量　　3：中量
　　4：やや多量　　5：多量　　6：極めて多量

詳しくは　http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/kaisetsu/funenryo/funenryo.htm　**参照**

火映の強度　0：微弱（肉眼では確認できず、高感度カメラによってのみ確認できる程度）
　　1：弱（肉眼でようやく認められる程度）
　　2：中（肉眼で明らかに認められる程度）
　　3：強（肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度）